

2017年度 認知システム論(コンピュータサイエンスコース)

期末試験とレポート課題について

■成績評価について

期末試験(50点満点)とレポート(50点満点)の合計点を成績とする。(60点以上が合格)
ただし、出席回数が講義回数(13回予定)の80%に満たないものは不合格とする。

■期末試験について

- 日時・場所 6月5日(月) 5講時, A23 講義室
- 試験時間 75分
- 出題範囲 AIプログラミング, 探索, 知識と推論, 制約充足
- 持込み資料 手書きで直接書かれたノートのみ持込み可(それをコピーしたものは不可)

■レポート課題について

つぎのA~Cのいずれかの課題を1つ選択すること。

課題A 授業で学んだアルゴリズムの1つを適切なプログラミング言語で実装し、適当な例題を実行しなさい。例題および実装の概略を解説し、ソースコードとともに実験結果を報告すること。ソースコードと表紙以外の部分は8ページ以内とする。

課題B 授業で学んだ内容について英語で説明されている文献を図書館やインターネットで探し、その英文全体と和訳を示しなさい。和訳は8ページ以内とする。

課題C 各回の授業から2回を選択し、その内容をレポートしてまとめなさい。1回あたり8ページ以内とする。

- 提出日 6月5日(月)の期末試験開始時に試験会場で一斉に提出を受け付ける。
- 評価基準 内容の**正確性**(授業内容を正しく理解していること)、**独創性**(人まねでない独自の考えを含むこと)、**興味深さ**(学術または応用の観点からのおもしろさ)、および**表現力**(説明がわかりやすく見栄えが美しいこと)を評価して、各レポートをおよそ以下のように得点化する。

S(50点): A評価のうち、特に優れているもの。

A(43点): 正確性と表現力が認められ、さらに独創性または興味深さに優れている。

B(35点): 正確性と表現力が認められ、さらに独創性が認められる。

C(30点): 正確性と表現力が認められ、さらに独創性が限定的に認められる。

D(0~25点): 正確性または表現力または独創性が乏しい、あるいは授業との関連性が薄い。

過去の実績では、**課題A**のレポートの評価が高い傾向がある。**課題B**の場合には、およそ標準的な評価となるが、どのような文献を選んだかでも独創性と興味深さを評価する。自動翻訳ソフトを使うと逆効果となる。**課題C**は、一般にはあまり高い評価とはならないが、できるだけ自分独自の表現をし、見映えを美しくすると評価が高くなる。

なお、故意であるか偶然であるかによらず、表現が他のレポートや出典に酷似しているレポートの評価は相当の減点となる。